

Fire Preventer



尊い人命や財産を炎から守る
無公害、防火・難燃剤

消防白書によると、1991年の火災件数は約5万5千件で、1800名余りの人がなくなっている。原因は「たばこ、火遊び、焚火」などが主で、こうした発生源とともに着火物が被害の大小を左右する。とくに繊維や紙、木材などは非常に火がつきやすく、中でもカーテンやじゅうたんのよう、表面積の広いものは、火災が急速に広がる。また衣類などのように人体に接触しているものは、素材によっては大きな火傷事故となる。現在、消防法を中心として繊維製品の難燃性の法規制が進められており、高層建築物、地下街、劇場、病院、ホテルなどで使用するカーテン、暗幕、じゅうたんなどが規制の対象になっている。しかし、すべての繊維製品が規制されているわけではないので、規制外のものが最初の着火物となった火災の例が多くみられる。例えば昭和57年に66人もの死傷者を出した東京のホテル火災は、宿泊客のタバコの火が簡単にシーツに燃え移ったためとされている。また昭和62年に死傷者42人を出した老人ホームの火災は、乾燥室のシーツが発火したもので、この場合もカーテンなどが「防災物品」だったのにもかかわらず大事故になった。このように規制されていないものが原因で多数の犠牲者を出したことに深刻な問題がある。そのため、最近では法規制のない寝具類や衣料品に対する難燃化の要望も強くなっている。すでに諸外国では、子供用寝具、衣料を対象にして規制が行われている。我が国でも、防災製品認定委員会などで対応の検討が行われ、これらの製品についても行政指導の形で難燃化が進められている。

近年、人間の欲望は有形のものから健康、安全、快適など無形の価値に向かってきつつあり、なかでも衣、住に対する安全への提案が多くなされてきた。即ち火災に対する安全性が災害の度に重要視されてくるばかりか、60歳以上の老人層が人口の四分の一を占めるようになってきたことから、衣・住は安全でなければならないことは誰もが認識する社会的要求である。それにもかかわらず世界的にも火災が多く発生している。これは未だ一般家庭では防災規制が殆どなされていないこと、消費者の安全意識が欠如していることなどが挙げられる。老人や子供など弱者を保護し、安全快適な健康生活を保障する規制が待たれてならない。

●1991年の諸外国の火災状況（消防白書より）

国名	出火件数	出火率 (人口1万人 当りの出火 件数)	死者数	人口100 万人当りの 死者数	火災1,000 件当りの 死者数	損害額 (億円)	火災1件 当りの 損害額 (千円)
日本	54,879	4.5	1,817	14.8	33.1	1,614	2,941
アメリカ	2,041,500	80.8	4,465	17.7	2.2	12,753	625
イギリス	436,258	76.0	818	14.3	1.9	2,419	554
中国	45,167	0.4	2,109	1.8	46.7	132	292
大韓民国	16,487	3.8	525	12.1	31.8	81	493
ニュージーランド	20,141	59.6	26	7.7	1.3	—	—
ノルウェー	13,269	31.1	66	15.5	5.0	345	2,598
カナダ	68,150	25.2	388	14.4	5.7	1,458	2,139

あなたの命と大切な財産を炎から守る無公害・防火難燃剤 ファイヤー プリベンター

ファイヤープリベンターは噴霧するだけで天然素材を難燃化できる画期的な防火難燃剤です。

火災予防は適切な防火管理はもちろんですが、家財や衣類など素材そのものに難燃処理を施すことで、より安全なものとなります。

ファイヤープリベンター（FP）は、化学的処理の施されていない綿・ウール・紙・木材など天然素材に噴霧するだけで不燃性に変えることができ、優れた火防（ひぶせ）の効果を発揮します。

**天然原料なので無公害。
だから安心して使えます。**

ファイヤープリベンターは無色透明で無公害性の水溶性薬剤です。合繊や新建材などのように人体に有害な刺激や有毒ガスが発生しません。また、噴霧した木材や布などに変質や変色が起こりにくく、貴重な重要文化財などにも安心して使えます。さらに、紫外線や気温によって難燃効果が損なわれることなく、雨に当たらない所なら半永久的に効果が持続します。

公共施設から業務用・一般家庭 まで、多彩な施設と素材にFP 処理を。

無公害性で取り扱いも簡単なファイヤープリベンターは、業務用からご家庭まで、多彩な用途に大活躍。大切な財産を火災から守るため、ぜひFP処理をおすすめします。

Fire Preventer 6つの特長

- フラッシュオーバーを抑え、遅らせる。
- 類焼を防ぐ。
- 人と環境にやさしい無公害性。
- 対象物質の変質・変色が起こりにくい。
- 簡単な処理で効果が持続し、コストパフォーマンス性に優れている。
- 住宅から衣類まで多種多様な素材・用途に対応。

噴霧するだけで優れた防火難燃効果を発揮。安全性も数々の実験で証明されています。

◆特別な処理設備や装置は不要。

噴霧作業もマスクなしで簡単にできます。

FP処理は噴霧・ハケ塗・浸す・注入などの簡単な作業だけ。特別な設備や装置は不要です。また、無公害性なので作業中もマスクなどをする必要ありません。

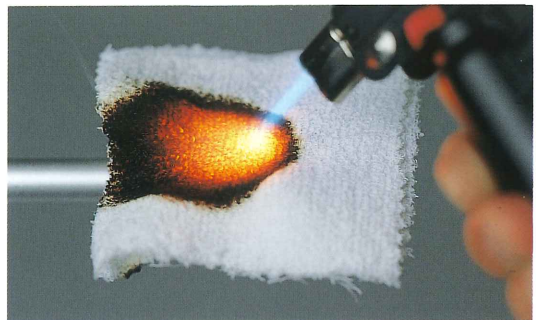


建築材に噴霧すれば、雨に当たらない箇所なら半永久的に火災に強い家建物になります。

(雨にさらされる箇所は条件によって3~5年に再処理する必要があります。)



FPで処理した新聞紙の上にアルミニウムを置いて、1300℃のバーナーで吹き付けます。アルミは溶け出しますが、新聞紙は燃えません。



FP処理した布は、バーナーの炎にもびくともしません。キッチンの防火布や、鋳物工場用の手袋、防火カーテンなど、アイデア次第で利用範囲は無限です。

◆フラッシュオーバーを抑える。

●火災では通常燃えやすい紙類、布類、木材、ワラ類など引火しやすい物が発火しフラッシュオーバーとなります。フラッシュオーバー（約750℃）状態となれば不燃物質以外はすべて燃えてしまいます。FP（火防）は、1300℃の熱を用いても炎を出さない。すなわち引火をしないため、フラッシュオーバー状態とならない。いわば類焼をしないということになります。

●引火物であるガソリンや油にあやまって火がついた場合も、その引火物が燃え終わると類焼を止めることができます。下の写真は報道関係者など多くの人達の前で実験したものです。



2棟の木造の小屋にガソリンをかけて、一斉に点火する。



左側は完全燃焼、右側は焦げただけで原形をとどめている。

《FIRE PRIVENTER 燃焼実験》

右側の小屋はFPで処理してある。



右側の小屋はガソリンが燃え尽きて鎮火した。



文化財守ろうと 難燃剤を噴霧

豊国神社の塀

文化財を火災から守ろうと十五日、京都市東山区大和大路通正面茶屋町の豊国神社の本殿の四い塀に、火が燃え広がるのを防ぐ「難燃剤」が噴霧された。作業員は薬剤が入ったタンクから、塀のほぼ半分、約四百メートルにわたって噴霧した。

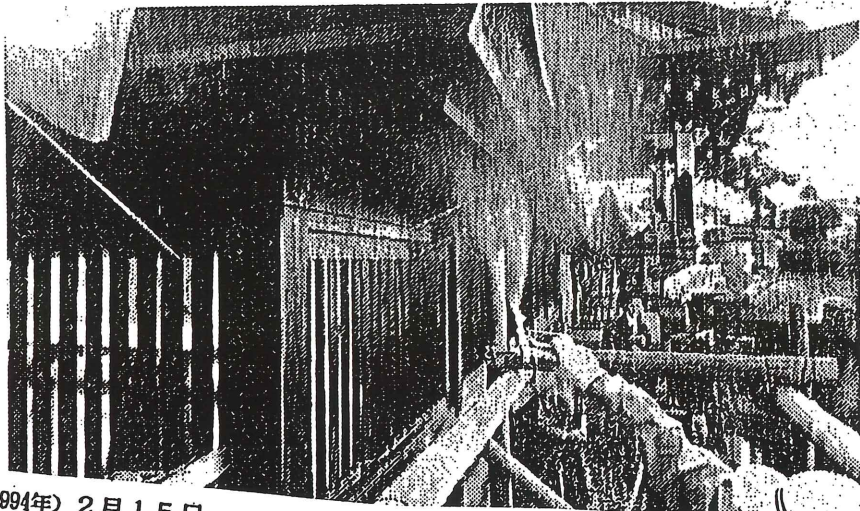
液を吹きつけた。

難燃剤はホウ酸系複合剤が主成分で、無害無臭。取

りかたは、スプレー、霧吹き、及びポンプ、エア、ガス、

実験でも効果を示す

中京区によると、噴霧した木村には、ガスバーナーで火を吹きつけても炭化するだけで燃え広がらなかつた。難燃剤の効果は、



豊国神社の本殿外囲い塀に吹きつけられる難燃剤

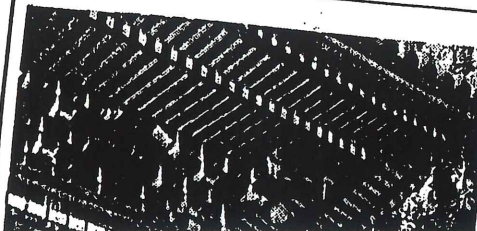
(13) 平成6年(1994年)2月15日

中外日報

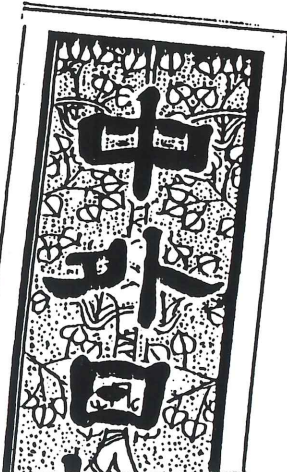
瞬く間に防火処置 頻発する放火に備え

石川県・那谷寺で

高野山真宗の別格本山・那谷寺(糸崎山)住職、石川界小松市)で一月二十三日、参道正面の橋門を防火処置す



る作業が行なわれた。石川県では昨秋かをターゲットとした放火が頻発しており、宗教学火問題に寄せる関心は高北陸一の名刹という同寺名度と、これまでに無い的な防火剤を使用する





《Fire Preventer 処理の使用例》

- 神社・仏閣・文化財などの保護に。
- 病院などのランドリーシステムに。(シーツ、患者用衣類、病室のカーテンなど、最後の濯ぎ時に使用)
- 住宅・家具・カーペット・などに。(台所などで防火布としてもつかえます)
- 段ボールなどのパッケージ類に。
- 建築用材木に。(製材段階で、加圧注入)

株式会社 日興

ご用命は正規代理店